87　明治17年11月21日　菊池たよ

御はア様御病気ニ付いか計り御安事被下候半御病性といい御としといい実ニ心はいニ御座候御様子ハ日々御しらセ申居候とふり日増御ちかれのミ実ニ〳〵御いたわしく皆様の御かけニてゆたん無御かいほう致し居候御両へん共御とこにて被成候へハ御しめしもあたらしくこしらへ又御召物もわた入エおし□しみ候へハ度々あろふ事出来不申ゆへふらねるとうき二枚こしらへ取かへニ致し日々御こしゆのかわり御ゆニてふき御気分よろしきよふニ致上候ありかたき事ハ私しエ計り御下の方ハ御さセ被下御そはおるなれゝハおしへ御よひ遊カと思召被下候ハこそとありかかたくゆたん無御せわ申上居候御しひれのため御ねおきニ

も四人もかゝらねハ相成不申横おは様御初山本殿九十九さんおい様方かわり〳〵いしやハも元朔日や頼この人ハ際ニ心セつの人ニて御かん病ハ第一皆エ心はい致しくれ実ニたのもしき人ニて力ニ致居御病人様の事ハいしやてなけれハ時々の御様子ニより御くしりのかけんもわかり不申ゆへ頼おき候よく〳〵私しの心はいヲさつくれとふさいさんも一ノ第子引上られてめいわくニハ候へ共とめてくれ居候

（抹消）〔久昌寺〕

昨日まてハおまいの事も何共おふセ無候ゆへわさと私しゟ申上す居候所私ヲ御そはニ御よせ武夫となみニ合不由ゆくのハさんねんたと御くとき御なけき被成候ハ実ニ〳〵御のこりおふく思召候半とさ申上よきほとに御あいさつ致セ共いか計り御あい被成度思召候半とさ申上居候いしやニ尋るニ五日十日ニ御ちまりとハあるましくと申候へ共いかゝの物ハ今ニ御しよくも被成候へハ実ニ〳〵心はいニ御座候

おゐちハいかゝの様子かあんし居候とそうそ〳〵ちよくならぬようなれハよろしくわらしともまめしく候よし何分の事此元外をいつれも無事長屋の事ハおふセのとうりいそかぬ方よろしく候半と存居候

久昌寺エのきふ一昨日おしもりせわ人二人参り何とかふんはつしてくれろともふされ山本さんや九十九さんエそふたん致し候へハ此度ハたんかの百五十間もやけ候へハきふ頼むへき方もしく無ゆへわけても頼ニ候ゆへ二十か三十くらへならと御心付もあれ共今三十円もやりてハめいわくゆへ木羽分とりおき候まさ内の用人ニハよろしからししきまさゆへおれヲ五万枚きふ致候木はゟ受取ねたんニしれハ二十円も出不申ハ千五百枚ハ生而丁のうら屋ねふきてなく成候又武兵衛のかり小屋エも十五わも遣しふ人しかうなようなれ共持おりても内の計り用へニも成るましく又金ゟ品物やる方もよいかと存遣申候今長わり殿かおはり上居る内さつと申上候御しへ□□□候御よみ被下度御身大セフに勤被成候よういのり居り候皆えもよろしく

十一月廿一日　　たよ

武夫との

（同封　明治17年11月21日　菊池元朔）

拝啓仕候陳は去ル十八日附ニて御祖母様御容体御報仕候筈ニ候へ共取急之為遂ニ右之文字を脱書候間御加入御読別被成下度候即チ（言語常体嚥下困難ナル了ナシ）然ルニ前ニ申上候通苦悶ハ緩解ニ至リ候へ共過日（十四日）来一切食欲ハ無之只右半身之倦怠ニ苦ミ漸々衰弱増加シ然ルニ精神ニ於テハ依然たり他は別段御変状も無御座候先は御容体追報迄如期（ママ）御座候早々

十一月廿一日

菊池武夫様　　菊池元朔

病用

（封筒表）
「東京小石川区表町六拾番地
菊池武夫殿（消印1）
至急報」
（封筒裏）
「十一月廿二日（消印3）
岩手県盛岡外加ゝ野
菊池多代
（消印2）無事」

（消印1・2）
「盛岡・陸中・一一・二二」
（消印3）
「東京・一七・一一・二六・二」